

「とことん市民目線」による政策の刷新！

～背景～

・印西市のごみ処理は、印西市及び隣接する白井市、栄町で構成する**一部事務組合**（印西地区環境整備事業組合）において**共同処理**。

・組合は、施設の老朽化に伴い、新たに**500m離れた場所**（千葉ニュータウン9住区）に、**処理能力が日量240t、総事業費約200億円**の**移転計画**を印西市長選挙の1年前（平成23年6月）に決定。

・移転先用地の絞込みが不透明
・住宅地近傍への移転は不適
・施設規模が過大
などの厳しい批判。
近隣住民を中心とした**反対運動**により、事業推進が難しくなる。

～マニフェスト5本の柱～

- ①**ごみ焼却場政策の刷新！**
- ②**救急医療政策の刷新！**
- ③**北総線・買い物政策の刷新！**
- ④**子育て・教育政策の刷新！**
- ⑤**地域保全政策の刷新！**

～ごみ焼却場政策への思い～

・移転計画は多額の事業費を要するものであり、「**建設計画地の再考**」や「**ごみの減量化を推進することによる施設規模の縮小**」により、事業を見直すことで**経費の削減**を目指し、**削減により得た財源**を子育てや教育などの**分野に傾ける**ことができる。

市民の声を組合の政策に反映する必要がある

～解決策～

・「とことん市民目線」により**徹底した情報公開**を基本とし、**最大限市民の意見を取り入れながら**、**用地選定や施設規模を再検討**する必要がある。

～市長選挙立候補～

・平成24年7月の市長選挙に、ごみ焼却場の**移転計画の白紙撤回**を第1に掲げ、市長選挙に立候補。

～当選後すぐに行動～

・組合に**移転計画の白紙撤回**を申入れするとともに、
・今後の**具体的スケジュール**や**現施設の延命化等**について、
関係機関と協議を開始。

「とことん市民目線」による事業の推進！

◎「とことん市民目線」による事業推進

移転計画を白紙とし、透明性を確保するための「徹底した情報公開」と、そのことによる「積極的な市民意見の集約と反映」

○「検討委員会の委員構成及び運営」

新たな検討委員会は、学識経験者4名、公募による市民10名、組合推薦による市民1名とした、**一般市民の意見を積極的に反映する委員構成**。また、用地選定に係る審査方法、審査基準など、あらゆる項目について、委員間で活発な議論を重ね課題解決を図り、**行政の主導ではない自主的な運営**。

○「公募を基軸とした用地選定」と「周辺住民の理解と協力」

候補地そのものを広く市民から公募することを基軸として用地選定。

その結果、応募は6件。中でも吉田区(全134世帯の自治会)は、**区の総意として地域発展のための施設受け入れについて積極的に事業計画に協力していくことで合意**。

平成27年に組合と基本協定書を締結。平成29年に組合と整備協定書を締結。正式に建設予定地に。



～組合の進捗状況及び今後の予定～

- ・H30 建設予定地の用地買収
- ・H30 埋蔵文化財調査に着手
- ・H31 環境アセスメントなどを予定

～最後に～

「**徹底した情報公開**」と「**市民参加による民意の集約と反映**」
これが「とことん市民目線」の基本。